

## 不思議な体験

*Strange Experience in my life*

早稲田 邦夫

*Kunio Waseda*

EICA 名誉会員

今までどれ位不思議な体験をしてきたでしょう？

幼稚園の頃の体験です。玄関先にお年寄りが立っているのを見つけて、台所の母親を呼びにいきました。しかし、母親が来たとき、お年寄りは居ませんでした。玄関を出て、近所を見廻しても見あたりませんでした。そのとき、母親が「九州の田舎のおじいちゃんの具合でも悪くなったかね」と独り言を言って心配していました。2、3日経ってウナ電（緊急電報）が届きました。母親に連れられて、九州の祖父の田舎（母の実家）に行きました。初対面の祖父は寝ていましたが、玄関前に立っていたお年寄りだったような気もするし、よく分からなかったです。親戚一同寝ている祖父を囲んで見守っていました。皆から言われ、祖父の布団の中に入り、添い寝した記憶があります。祖父はその晩に亡くなりました。「虫の知らせ」というものですね。

虫つながりで、ノミとの不思議な体験があります。小学4年生の夏休みの出来事です。その頃、我が家は犬、猫を飼っていました。特に、猫にノミが一杯いたので猫の毛を掻き分けてノミを見つけては爪の先で潰していました。一匹が飛び跳ねて逃げていきました。追いかけて何とか捕まえました。そのとき、目の前に透明色と青色の粒状シリカゲル（乾燥剤）の沢山入ったガラス瓶が現れました。「そうだ、この瓶にノミを入れたらどうなるかな？」と、少し残酷な好奇心が芽生え、捕らえたノミをシリカゲルの一杯入っている瓶の中に閉じ込めました。逃げようとしているのか時々跳ねていました。ノミは元々水分を必要としないだろうから苦しくはないのかなと勝手に観察していましたが飽きてきて、ノミを瓶に入れたことも忘れてしまいました。それから2、3日後のことです。夏ですから素足で廊下を歩いていたとき、ある地点で数十匹のノミが一斉に両足首に咬みついたのです。同日、同じところを歩いた姉には何も起こっていませんでした。ノミは私を認識して襲撃をしたのだと思いました。捕らわれたノミはノミ仲間に連絡し、私への復讐のため、たくさんのノミが集結したのでしょうか。これまでそんなにたくさんのノミを見たこともなかったし、ターゲットは私であったことは確かでした。ことわざに言う「一寸の虫にも五分の魂」のとおりでした。ノミの復讐の話を家族に説明しても友達に話しても誰も信じてもらえませんでした。足首についたノミ仲間に咬ま

れた傷跡だけが残りました。朝クモは殺さないようにしていました。ハエ、蚊、ノミは当然のように殺していましたが、何の復讐も反撃もありませんでした。シリカゲルの入った瓶の中という人工環境に封じ込めたが故の復讐なのでしょうか？人類だけが繁栄するための人工的環境形成が始まったときから自然は人類を淘汰しようとしているかも知れませんね。

忘れもしない中学3年生12月の事件です。当時の私は真面目で、クラスの学級委員をしていました。授業が始まるときと終わるときは学級委員が「起立」「礼」を言うのですが、その日も、いつものように「起立」「礼」と言った後、私はそのまま後ろに倒れ、意識不明になりました。すぐ、救急車が呼ばれ、病院に搬送しようとしたのですが、すぐに受け入れてくれる病院がありませんでした。最終的には、市内の総合病院が受け入れてくれました。この救急患者のたらい回し事件について、地元大手新聞が大きく取り上げ、問題提起をしたようです。私の意識は2日間戻らず、3日目に目が覚めたとき、私は呂律が回らないし、右手に感覚がなく動かせない状態でした。私本人は知りませんでした。大晦日を越えるかどうかという状態だったようです。後で聞くと父親は悲しんでいるだけでしたが、母親は子供を生かすために、セカンドオピニオン、お百度参り、祈祷など出来ることはすべて行ったようです。『母は強し』です。この救急搬送の救急車の中で、私は「幽体離脱」を体験しました。私の身体はストレッチャーの上で二人の救急隊員の方に抑えられていました。大きな声で「家に帰るんじや。はよどけーや。」とか汚い言葉を発し暴れている自分を、まさに救急車の上から透視して、冷静に観察している自分がいました。そして、「あんなに暴れてみっともない」と思っている自分がいました。後で帰りたいと暴れていた事実を確認出来ました。不思議な体験でした。結局、私はどうなったかという、彷徨いながら、2月末に退院し、3月初旬の公立高校入試に間に合い、何とか高校浪人は避けることができました。おまけですが、その後、大学入試で一浪し、大学で留年しました。おかげでオイルショックによる就職難を避けることが出来ました。「人間万事塞翁が馬」です。